



## 小傳

明治三年二月十八日仙臺城下鹽釜町に生る、父眞房母鶴子、祖父榮藏眞則は上州大間々の産、伊達家財政窮乏の時、上書して經濟の道を講じ、擢でられて其財用方となる。藩公與うるに食祿を以てするも、之を食むを肯んぜず、自から市井の一私民と號し、城に登るに當つても佩ぐに兩刀を以てせず。俳諧を嗜み、江戸の西馬を師とす。「合せもの離れものなり月と梅」、「佛性のありとも見えぬなまこ哉」、「肌寒や二日つゞきし精進日」等の句は、故紅葉先生の激稱せらるゝところなり。氣宇卓落頗る奇骨あり、死に瀕するや、恭しく身を起し、紙を展べて辭世の詠をとどむ。その歌は即ち在五中將が「いくつかゆくの」歌の一字をかへしのみ。藩の財政に干與する事十餘年、伊達家の財政頓に豊かなり。祖父歿するや、父眞房五歳の身を以て、上州高津戸より急輿を鞭つて、晝夜兼行仙臺に至り、松居家を襲ぐ。これより終に伊達家の士分に列す。眞房十九歳にして維新の變に會し、相馬中村の役官軍の爲めに包圍せられて負傷す。亂おさまりて後東京に遊學し、新錢座の慶應義塾に學ぶ。業を卒すして横濱に英語の私塾を開き、後川路大警視の下に、警視廳に奉職す。諸所の警察署長として轉々せし後、支那貿易に着目し、事漸く緒に着きし時、病んで歿す。年わづかに三十三。子眞玄、孤兒として具に辛酸を嘗む。十一歳の春、仙臺中

學校に入り、學ぶ事三年、病の爲に業を捨て、福島縣桑折なる角田林兵衛が許に、丁稚奉公をなす。居る事五年、志を立て、東上し、專修學校に經濟を學び、國民英學會に英語を學ぶ。故博言學士イーストレーキ氏母子、特に松翁を愛し、其家に寄寓して日々語學に親まじむ。仙臺の家、産を失ふに至りて、商人たらむとするの念を絶ち、坪内逍遙博士の門を敲き、其教を乞ふ。博士「早稻田文學」を創刊せんの意あり、即ち奥泰資と共にその門下に在りて、編輯に従事す。明治二十八年の暮中央新聞記者となり、後報知、萬朝報の二新聞に筆を執る。明治二十七年高田半峰氏の慫慂により、讀賣新聞に脚本「昇旭朝鮮太平記」五幕を連載す。之を脚本の處女作とす。明治三十二年、先代左團次の請により「惡源太」二幕五場を執筆し、爾來彼の死に至るまで數種の戯曲を提供す。劇界に出入してより二十餘年、譯著の脚本百四十餘種、上演せるもの九十餘種に及ぶ。外遊二回、倫敦劇術學校に演技法を學び、世界の名優と相知るところ多し。歸朝後、二たび大患に罹り、所志を半途にして擲つを常とせしが爲め、何等劇界に貢獻する所なく、碌々櫪の間に老ゆ。大正十三年ノム・ド・ブリュムを松翁と改む。たゞ此年より新たに佛蘭西語の學習を初め、拉甸、希臘の兩語を究めて後、ひそかに創作する所あらんとす、知らず天は此愚庸の老翁に、特別の天壽を假し給ふやいかに。

## 上演年表

- |   |       |           |       |                               |
|---|-------|-----------|-------|-------------------------------|
| 一 | 秀吉と淀君 | 大正四年十月初演  | 於有樂座  | 東儀鐵笛、河村菊江等に依つて                |
| 二 | 淀君と三成 | 大正七年十一月初演 | 於歌舞伎座 | 中村歌右衛門、市川左團次等に依つて             |
| 三 | 阪東武者  | 大正七年十一月初演 | 於市村座  | 尾上菊五郎、中村吉右衛門、守田勘彌、阪東三津五郎等に依つて |
| 四 | 政子と頼朝 | 大正十三年四月初演 | 於松竹座  | 市川壽美藏、市川松蔭、尾上榮三郎に依つて          |
| 五 | 文 覺   | 大正十三年六月初演 | 於松竹座  | 市川左團次、市川松蔭、市川壽美藏等に依つて         |

## 跋

おのが書き棄てし戯曲を集めし巻の末に、思ふ事かきつけよと編輯者より仰せられぬれど、誤つて劇界に身を投じてこゝに二十餘年、筆にせし戯曲百有餘種に及べど、一つとして人に誇らむものとはなし。こたび世に聞ゆる名家の驥尾に附して、そこばくの戯曲を同じ巻に上すを得たるは、學なく才なき此身としては、此上なき譽れとも、喜びとも思ほゆれど、巻を同うする名家の方々の、いかに片腹いたく思さるゝらむと、そのみ恥かしうも恐ろし、。人生の定命をだに過ぎたる老の身の、若き人々と交らむさへ後めたきに、今更に何のいふべき事やあらむ、何の思ふところやあらむ。

老いぬれば人のみるめも恥かしく

かきしるすべき言の葉もなし

大正十三年師走八日

松

翁

大正十四年二月一日印刷  
 大正十五年八月一日再版  
 大正十五年八月五日再版發行

現代戲曲全集  
 第三卷



著者

發行者

印刷者

印刷所

發行所

(非賣品)

松居松翁  
 高安月  
 山崎紫  
 伊原青々  
 岡鬼太郎園紅

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

中塚榮次郎

東京市下谷區二長町一番地

守岡功

東京市下谷區二長町一番地

凸版印刷株式會社

東京市麴町區內幸町一丁目六番地

國民圖書株式會社

電話銀座二一八八番  
 振替東京五二二九八番